SURE 静岡大学学術リポジトリ
Shizuoka University REpository

芝川町大窪A遺跡

メタデータ	言語: Japanese 出版者: 公開日: 2018-05-15 キーワード (Ja): キーワード (En): 作成者: 長島, 昭 メールアドレス: 所属:
URL	https://doi.org/10.14945/00025072

芝川町大窪A遺跡

長　島　　昭

平成14年3月24日の各紙朝刊は、芝川町大窪（おおしかくぼ）の県営中山間地域総合警備事業「柚野の里地区」ほ場整備に伴う発掘調査（昨年11月より約3800 m²）で遺跡が発見され、昨日説明会が行われた、と報じた。それによると、遺跡は「窪A遺跡」で（図1）今から約1万1千年前の縄文時代草創期の集落跡であり、6つの住居跡、配石遺跡（祭りをした跡）、集石遺溝（料理した跡）、焼土跡（火をたいた跡）などが見つかり、石のやじり、土器の破片など約2万点が出土したという。

3月30日に再度説明会を行うとあったので出かけてみた。その時、南西側から発掘現場を撮ったのが写真1である。遺跡は福石神社の裏約50 mの所にあり、発掘現場は東西約15 m、南北約25 mの四辺形で、深さは約1 m位、北東隅から富士山の溶岩流が出ており、その東側の部分に配石遺溝が見られ、溶岩流は西に高さを減じて地中に没している。広場を挟んで南西側の部分に8つの竪穴式

写真1．窪A遺跡発掘現場．
背景に富士山，発掘現場の北東隅に溶岩流，手前に住居跡の一部が見える．

住居跡（23日の後2つ発見された）が馬蹄形状に並んでいた(写真２)。住居跡は深さ約30 cm直径役3 mで周囲に柱の穴の跡が見られた。一つの住居跡には木の実や肉をすりつぶすときに使われたと見られる丸石（石皿）が出土していた（写真３）。石皿は10数kgの重さがあり持ち運びには不便なので、定住を裏付ける資料と考えられている。

写真２．竪穴住居跡群.

写真３．住居跡の中の石皿.

これらの遺物が含まれていた地層は某誌によると、「富士黒土層である」としていたが、富士黒土層の堆積年代は^{14}C法（放射性炭素法）で上部5830±130年B.P.(小山町大御神、腐植酸、泉ほか1977）であるので、「今から約11000年前の遺跡」ということと合わない。そこで芝川町教委の保竹主事を尋ねた。「遺物の出土層は富士黒土層のスコリア層（愛鷹山麓休場層上部に相当）です」とのこと(図２)。休場層の堆積年代は^{14}C法で14300±700年B.P., 11100±700年B.P.（鈴木1975）であるので、記事の遺跡の年代11000年はうなずける。

出土物の中の土器の形式についてみると、隆起線紋土器は愛知県上黒岩遺跡Ⅺ層でも出土しており、その堆積年代は^{14}C法で12165±600年B.P.、爪形紋土器は長崎県福井洞穴遺跡Ⅲ層でも出土しており、その堆積年代は12700±500年B.P.であることから、この遺跡の年代は約11000年前頃のものであることに納得した。

発掘現場に出ていた溶岩流であるが、保竹主事によると、芝川溶岩流であろうと見ているが、目下鑑定に出しているという。この溶岩流の年代がはっきりすると、この遺跡の年代を決めるのに役立つだろう。

この文をまとめる際に、ご教示を賜った静岡県埋蔵文化財調査研究所栗野調査研究部栗野次長、芝川町教委保竹主事に感謝する次第である。

（注）

＊ B.P.は1950年を基準にしてる。

＊富士黒土層は富士山・箱根山麓の表土のしたにある火山灰由来の粒子が少なく、植物の珪酸体（plaant opal P.0.）を含む黒土で、植物でP.0.を多く含むものはイネ科（例えばススキ）のものであって、非火山灰起源の土(例えば風積土)に生長したススキが冬に枯れ、腐食し、P.0.を供給し続けて次の火山活動で埋没して現在にいたっている。箱根、愛鷹の標準的土層の模式図は第２図のようである。なお、F.B.は富士黒土層YLUは休場層上部

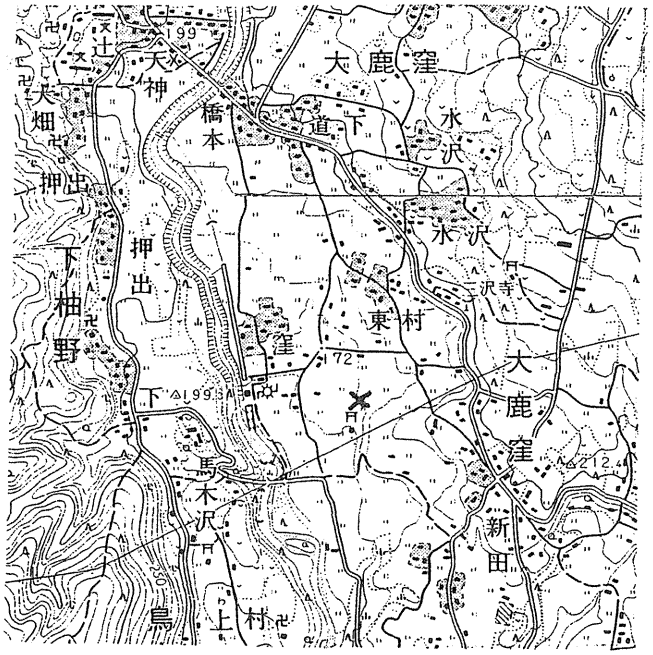

図１．芝川町窪Ａ遺跡の位置（×遺跡）．

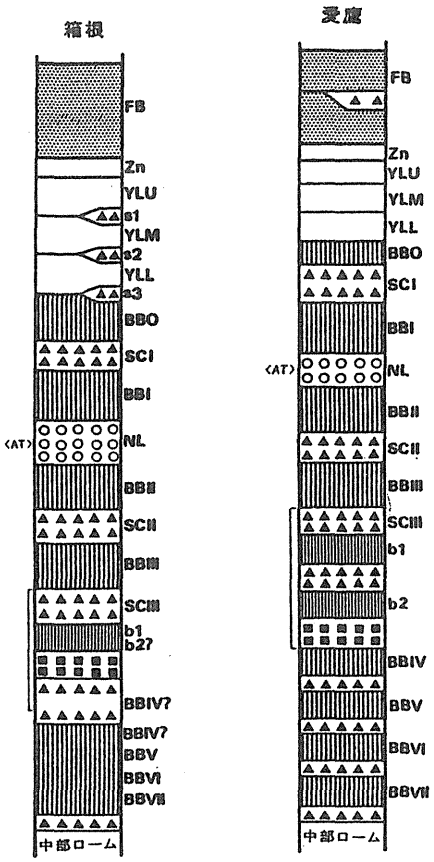

図２．標準的土層の模式図．
FB：富士黒層
YLU：休場層上部

引用文献及び参考文献

芝川町教育委員会編（2002）芝川町大鹿窪・窪Ａ遺跡案内資料，遺跡の概要．

池谷信之（1995）愛鷹・箱根山麓の層序と出土石器「愛鷹・箱根山麓の旧石器時代編年」，静岡県考古学会．

増島　淳（1978）富士愛鷹山麓の火山灰と先史時代の遺跡との関係，静岡地学，38．

理科年表（2002）国立天文台（編），丸善．

加藤芳朗（1988）愛鷹ローム層「地学・土壌・考古環境」加藤芳朗先生自薦論文集刊行会．

国土地理院：５万分の１地形図「富士宮」「上井出」の一部使用